
【お題小説】 1 番貴方に伝えたい想い

二色誠人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

【お題小説】 1番貴方に伝えたい想い

【Nコード】

N6929Y

【作者名】

二色誠人

【あらすじ】

j a c h i n サキサカユキジ様にお借りしたお題を使用したお題詩です。

拝啓

ふと時計をみると、21時を過ぎたところだった。

この時間帯なら、面白いテレビ番組でもやっているだろう。

だが私は、それどころではない。

私は今、手紙を綴っている。

私の大切な、大切な人に向けて綴っている。

遠くてなかなか会いに行けない、私の大切な人。

手紙の書き方はめちゃくちゃだ。

私は手紙の正しい書き方なんて知らない。

ただ、気持ちを全て綴っただけだ。

私はそれで良い。

手紙を封筒に綺麗に、丁寧に入れた。

キャンドルの明かりを息を吹きかけて消す。

部屋は真っ暗になった。

何も見えないが、手紙を持っているという感覚だけはある。

その手紙を左手に、部屋を出、靴をつっかけ履き、玄関を出る。

見上げれば、綺麗な夜空がどこまでも続いている。

手紙を握りしめて、ただ歩く。

冬の夜は寒い。指先はもう氷のようだ。

でも、この想いを届けるためなら。

ポストに投函する瞬間。

なんだか嬉しかった。

これで届くんだった。

また待ち遠しい日々が始まるなあ。

拝啓（後書き）

お題配布元：j a c h i n

使用お題：字書きに贈る七題 パターン1

1・拝啓

回りくどい言葉、及び誤解

君は黙ってしまった。

僕も黙る。何を言えばいいのか分からなくなってしまったから。だから目的地の駅に着くまでは、僕等の間には会話は無かった。

最初から、素直に頼めば良かった。

今更、僕は後悔した。

「一緒に係の仕事をしてほしい」
たった一言。それだけ。

それだけを言えば良かった。

だけでも、僕は言えなかった。

君相手とはいえ、照れくさかったのだ。

人に何かを頼むのは、僕の中では照れくさい事だった。

それに、申し訳ない気持ちもあった。

こんな面倒くさいこと、君にも任せたくない。

だから僕は、一人で仕事をした。

君には、「用事があるから帰っていいよ」と言った。

そう言くと君は、「わかった」と、教室を出て行ったから、僕はてっきり帰ったものだと思って、結構時間を掛けて仕事をこなした。

そして校門を出ると、君が待っていたのだ。

こんなに寒い中。

仕事をさせるのも申し訳ないと思ったが、待たせてしまってさらに申し訳ないと思った。

そして、今に至る。

「本当に待たせてごめん」

僕は駅のホームでそう言った。

君はちらりともこちらを見ないで、缶に入ったホットココアを一口飲んだ。

その姿を見て僕は、さらに悲しくなった。

「別に」

君は素っ気なく言った。

やっぱり怒っているんだろうか。

「ただ、なんで俺に頼んでくれなかったんだよ」

「え？」

君はまたホットココアを一口飲んだ。

「なんで頼んでくれなかったんだよ。俺は一緒に仕事するべきだっただろ」

君は下を向いた。

「だって、迷惑掛けたくなかったんだ。こんな面倒くさい事、やりたくないだろ」

僕は少し声を大きくしていった。
いや、大きくなってしまった。

「俺は、ただお前一人に仕事をさせてしまったのが嫌だったんだ。俺も手伝ってやりたかった」

そして君は、やっと僕の方を向いた。

「お前はそうやっていつも……お人好しすぎなんだよ。俺だってずっと楽しんでいきたいわけじゃないし、お前が辛い思いや苦しい思いしてんのに俺が知らないでいたら俺も苦しいし。もっと人を頼れよ」

ま、そういうことだから。

そう言っ君は笑った、ように僕には見えた。

ちょうどその時、電車が到着した。

回りくどい言葉、及び誤解（後書き）

お題配布元：j a c h i n

使用お題：字書きに贈る七題 パターン1

2・回りくどい言葉、及び誤解

原因と結果

彼は、閉じこもってしまったらしい。

彼が学校を休み始めた時点で、私は怪しいと思っていた。いや、それよりもっと以前から、怪しいと思っていた。

彼は所謂いわゆるいい子で、挨拶はしっかりするし、勉強も出来て、運動神経もそこそこある。それになにより、穏やかで聞き分けが良い。

だから先輩や先生達には可愛がられていた。

だが、それを妬む子もいて、色々影でやられていたらしい。

靴を隠されたり、ケンカをふっかけられたり、黒板消しでたたかれ
たり。

彼はそれでも、私にすら何も言わなかった。

でも私は知っていた。

だけど私は何も出来なかったし、彼に何も言えなかった。

だから彼は、閉じこもってしまったのかもしれない。

いろんなうわさが流れ始めている。

その中で今一番有力とされているのは、「彼は心の病気になってしまった」といううわさだ。

あの、彼が。

病気。

いじめていた人達はこれっぽっちも反省せず、ざまーみる、とか言っている。

私も出来ることなら休んでしまいたい。

こんな人達を見ていたら、おかしくなってしまいそう。

こんな、人の気持ちも考えられないような。

そんな人を見ていられない。

今日、学校が終わったら即行で彼の家に行こう。
彼が出てこなかったら手紙を渡してもらおう。

彼が閉じこもってしまったのは、私のせいもあるかもしれない。
近くにいたのに、仲が良かったのに何も出来なかったから。
ごめんね。

もし貴方が良いといってくれるのなら。

貴方の傷を共有しても良いでしょうか。

少しでも、貴方の痛みをわかってあげたい。

それが私に出来る償いだと思うのです。

原因と結果（後書き）

お題配布元：j a c h i n

使用お題：字書きに贈る七題

3 . 原因と結果

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6929y/>

【お題小説】1番貴方に伝えたい想い

2011年12月17日12時52分発行